

必読！

これだけは知っておきましょう。

マークIIとともに、  
より安全・快適なカーライフを  
お楽しみいただくために——

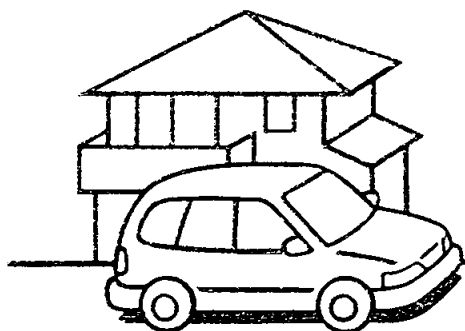
## これだけは知っておきましょう。

ドライバーとしてこれだけは知っておいていただきたい項目を  
以下の必読ページにまとめてあります。

安全・快適なカーライフをお楽しみいただくため、  
ぜひお読みください。

## お出かけ前のチェック

必読！



シートベルトを正しく着用してください。

点検整備を必ず実施してください。

- 日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。点検整備については「メンテナンスノート」をお読みください。

走行中は必ず全員がシートに座り、シートベルトを正しく着用してください。

- 走行中のシート以外の場所への乗車・車内の移動・シートベルトの不適切な着用は、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

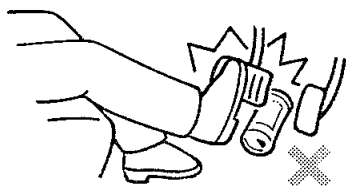
燃料がはいった容器やスプレー缶などは積まないでください。

- 万一のとき引火するおそれがあり危険です。



運転席足元に物を置かないでください。

- 空缶などの物を置くとブレーキペダルの下にはさまり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなどのおそれがあり危険です。

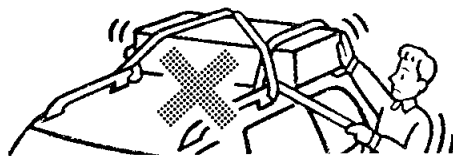


指定以外の燃料を補給しないでください。

- ガソリンは無鉛ガソリンを補給してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油を補給すると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

ルーフレールには不用意な荷積はしないでください。

- 荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。



荷室に後席背もたれより高く荷物を積まないでください。

- 急なブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、ケガをするおそれがあります。

タイヤ空気圧はときどき点検してください。

- タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行しないでください。バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

水温計の指針が動き出すまでは、  
極端にアクセルペダルをあおらな  
いでください。

- 暖機不足の状態では触媒装置が焼損するおそれがあります。
- 暖機は水温計の指針が動き出す程度で十分です。

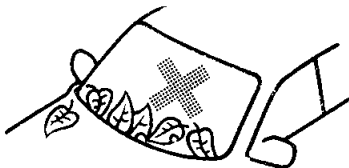


排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むとガス中毒になるおそれがあり危険です。

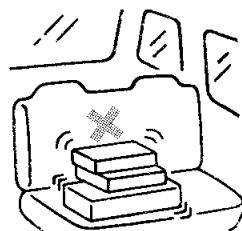
- 換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫内など閉まれた場所では、排気ガスが充満し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。



- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。
- フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついていいるときは取り除いてください。外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。



- バックドアが閉まっていることを確認してください。開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。



- 車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、空調の内外気切り替えを外気導入にしてファンを強にし、新鮮な外気を車内にいれてください。また、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスによるガス中毒のおそれがあり危険です。

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

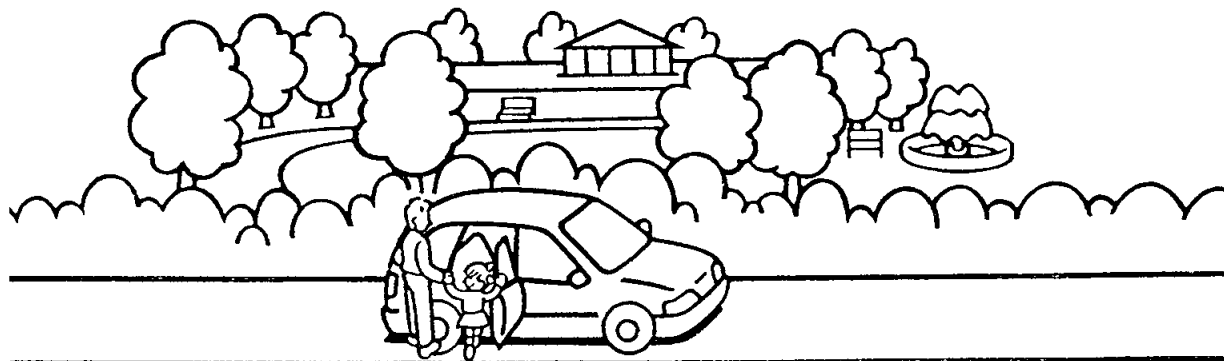
- いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき

助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。

- ブレーキをかけたときなどに荷物が移動し、荷物を損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

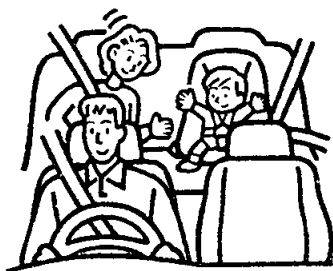
## お子さまを乗せるときの気くばり

必読！



お子さまはリヤシートにすわらせてください。

- 助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思いがけない事故につながるおそれがあります。また、万一の事故の場合、リヤシートのほうが安全と、言われています。
- チャイルドプロテクターをお使いください。  
(24ページ参照)



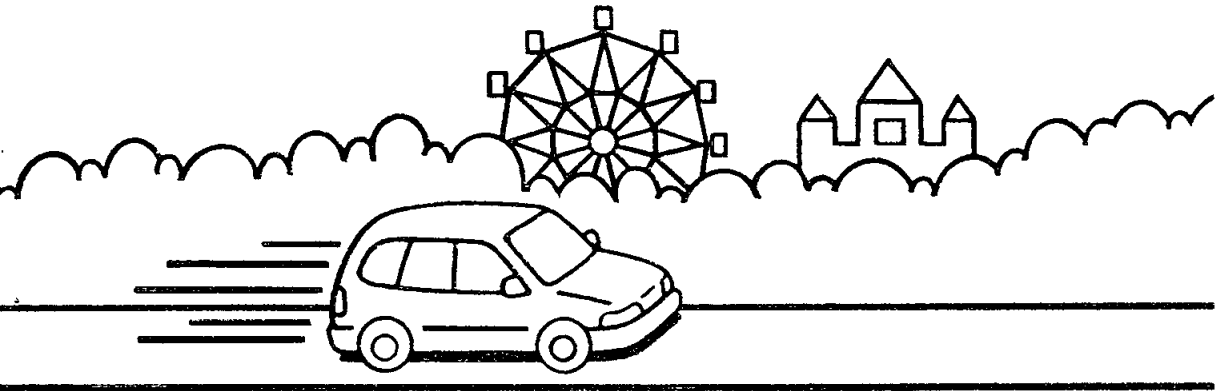
お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

- ひざの上でお子さまを抱えていても、衝突したとき十分に支えることができずお子さまがケガをするおそれがあり危険です。
- リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や、腰骨にかからないような小さなお子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。通常のシートベルトでは、衝突のとき腹部などに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。また、ひとりすわりのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。なお、ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

### 〈選択の目安〉

	体重(kg)	身長(cm)	参考年齢
ベビーシート	～10未満	75以下	～12カ月
チャイルドシート	7～18未満	105以下	6カ月～4才
ジュニアシート	15～32以下	135以下	4才～10才

- ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートを取りつけたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付けかたは、それぞれの商品に付属の取扱書をご覧ください。
- やむをえず、助手席に乗せるときも、必ずシートベルトを着用するかベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。



ドア、ウィンドウなどはお子さまに操作させないでください。

- 閉めるときに手や顔などをはさんだり思わぬケガをするおそれがあり危険です。
- ウィンドウロックスイッチもあわせてお使いください。(27ページ参照)

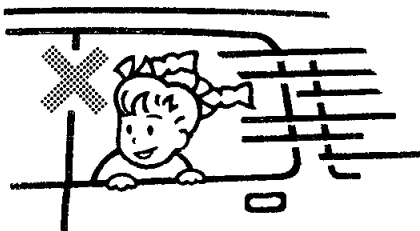
車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

- 炎天下の車内は高温となり熱射病などのおそれがあり危険です。
- いたずらなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。



窓などから手や顔を出さないでください。

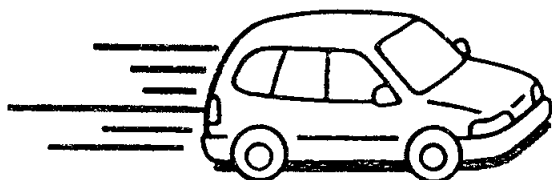
- 車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬケガをするおそれがあり危険です。



## 安全・快適ドライブのために

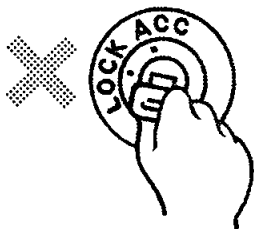
車間距離は十分とってください。

急発進、急ブレーキは避けてください。



走行中はエンジンを切らないでください。

- エンジンがかかっているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- キーをLOCK位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。



ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けしないでください。

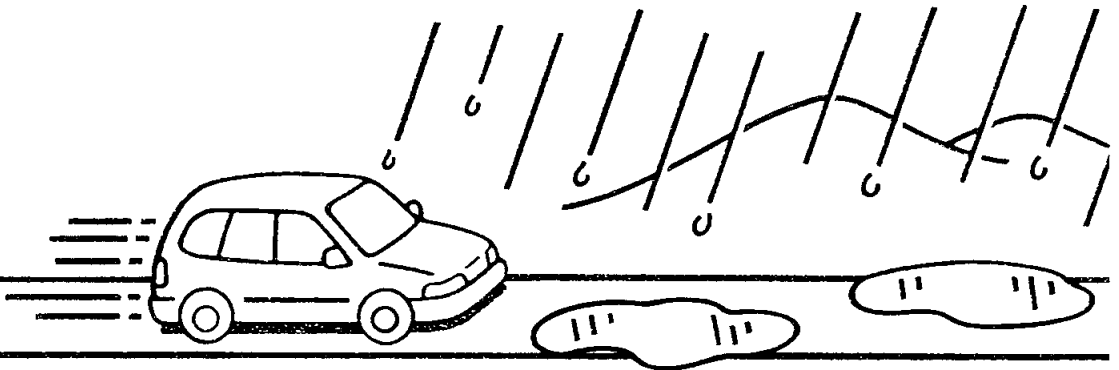
- オイル潤滑不良を起こし、パワーステアリングポンプを損傷するおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

- ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤに入れるほどよく効きます。1速ずつシフトダウンしてください。

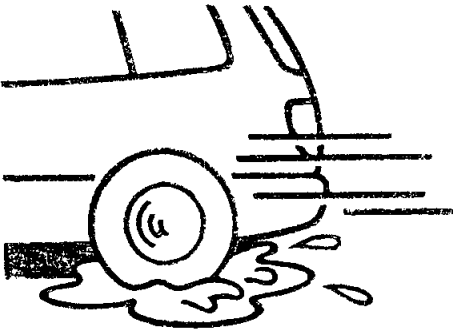
ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面ではとくに慎重に走行してください。

- スピードをひかえめに運転し、急ブレーキや激なエンジンブレーキは避けてください。とくに雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいためご注意ください。



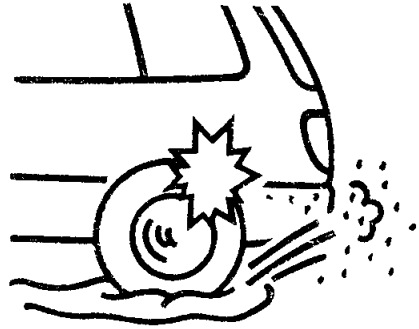
洗車後や水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- ぬれたブレーキは効きが悪かったり、また、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられるおそれがあります。



スタック（立ち往生）したときなどタイヤを高速で回転させないでください。

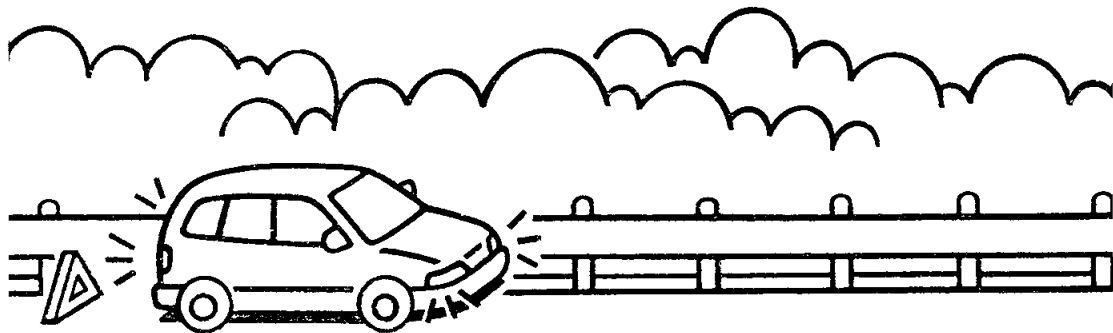
- タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。



ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。

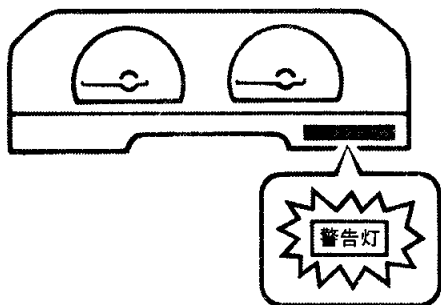
- ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

## 走行中、異常に気づいたら



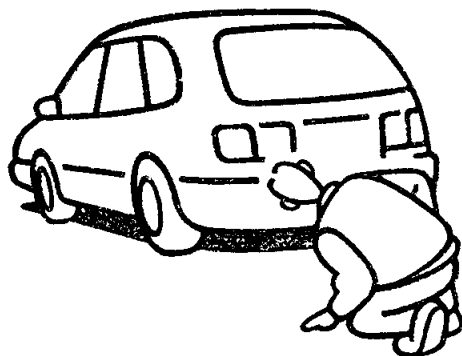
警告灯が点灯したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

- 点灯したまま走行すると思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。(57ページ参照)



車体床下に強い衝撃を受けたら、すぐに安全な場所に車を止めて下まわりを点検してください。

- ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。漏れや損傷などが見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店などにご連絡ください。



走行中にパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

- ハンドルをしっかり持ち徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
- 急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。



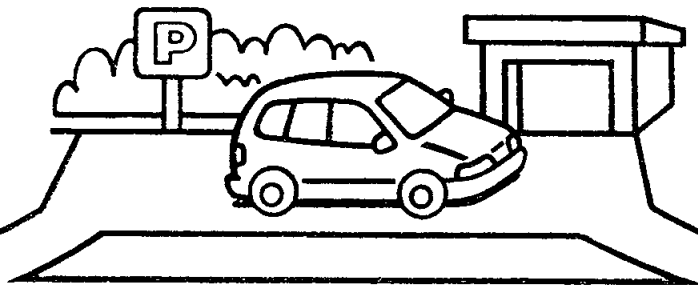
ちよっと一言

次のようなときはパンクやバーストが考えられます。

- ハンドルがとられるとき
- 異常な振動があるとき
- 車両が異常に傾いたとき

## 駐停車するとき

必読！

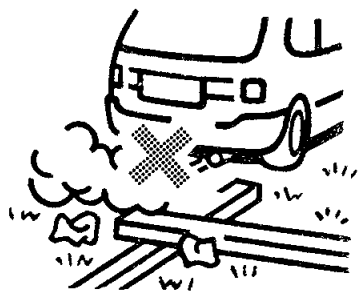


車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ必ずエンジンを止め施錠してください。

- 無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。また、施錠していても車内に貴重品を置いたままにしないでください。

可燃物付近に車を止めたりしないでください。

- 車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災になるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。
- 枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。



仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。

- 無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあり危険です。
- 排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。



車が雪でおおわれたときは、車のまわりから雪を取り除いてください。

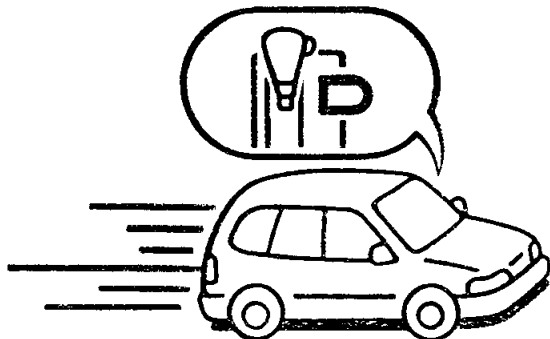
- 車のまわりにたまった排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

- 坂道を利用した移動は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンがかかっているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

## オートマチック車の正しい運転のしかた

46ページの「オートマチックトランスミッション」もあわせてお読みください。



ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

- 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

### オートマチック車の特性

#### ■クリーブ現象

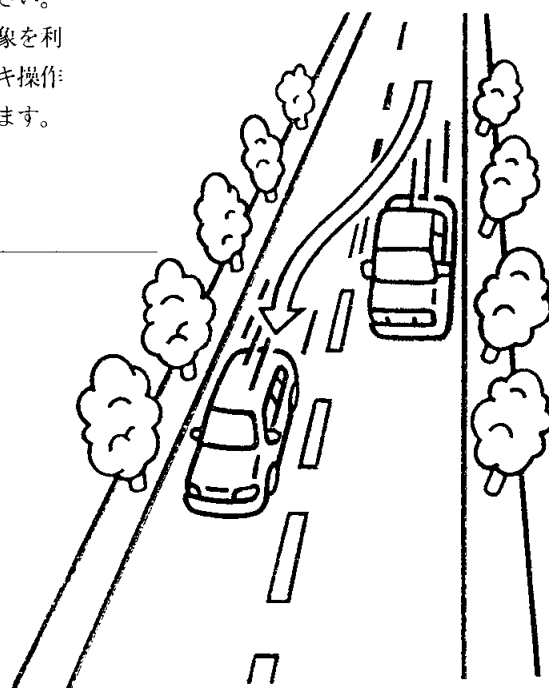
エンジンがかかっているとき、チェンジレバーが**P**以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆっくり動き出す現象をいいます。

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジン回転が上がり（アイドルアップ）、クリーブ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

#### ■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

- 追いこし時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。
- すべりやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセルペダルの操作はさけてください。



# 運転のしかた

## エンジンをかけるまえに

**1**  
正しい運転姿勢をとる。

ペダルが確実に踏み、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

**2**  
アクセルペダルの位置を確認。

**3**  
ブレーキペダルの位置を右足で確認。



踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足におぼえさせておくことが重要です。

## エンジン始動

詳しくは○44ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。

**1**  
パーキングブレーキを確認。

**2**  
Pの位置を目で確認。

Nの位置でも始動できますが、安全のため車輪が固定されるPの位置で行ってください。

**3**  
ブレーキペダルを右足で踏む。

**4**  
エンジン始動。

## 発 進

1

ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま。

4

パーキングブレーキをもどす。

5

ブレーキペダルを徐々にゆるめ、  
アクセルペダルをゆっくり踏み加速。

2

チェンジレバーを前進はD、  
後退はRに入れる。

3

チェンジレバーの位置を目で確認。

チェンジレバーをDやRにいと、クリーブ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。発進時のレバー操作は、ブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行ってください。エンジン始動直後やエアコン作動時などアイドルアップしているときは、車が動こうとする力がとくに強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

マニュアル車では、発進時のスピード調節を半クラッチ操作とアクセル操作を併用して行いますが、オートマチック車では、アクセル操作のみで行いますのでアクセル操作は慎重に行ってください。



注意!

レバー操作は、絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

### ■急な坂道の発進

- チェンジレバーの位置を目で確認したら、
- まずアクセルペダルをゆっくり踏み、
  - 車が動き出す感触を確認してから、
  - パーキング(駐車)ブレーキをもどし発進。

# 運転のしかた

## 走行

### 通常走行

チェンジレバーを①のまま走行。

アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速ができます。

### 急加速

アクセルペダルをいっぱい踏み込む。

キックダウンし、急加速できます。

### ■上り坂をなめらかに走るには

上り坂でスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。このようなときは、あらかじめ②にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

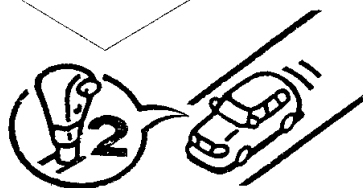
### 下り坂走行

#### エンジンブレーキを併用

下り坂を①のまま走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。

チェンジレバーを②に入れて、エンジンブレーキを使います。

O/DスイッチをOFFにすることで、よっても



軽いエンジンブレーキが得られます。

高速道路の長い下り坂などで使うと有効です。

### 急な下り坂

より強いエンジンブレーキが必要な場合は③に入れる。

### 各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

(単位：km/h)

シフト位置	エンジン型式	
	1 G-FE	3 Y-E
L	55	50
2	95	90



注意！

走行中は④にしないでください。チェンジレバーを④にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因につながるおそれがあります。

また、④にしたままで走行するとトランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

## 停車

1

①のままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないように、とくに注意してください。

2

必要に応じてパーキングブレーキをかける。

急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、しっかりとパーキング（駐車）ブレーキをかけてください。

停車時間が長くなりそうなときは、チェンジレバーをPまたはNに入れる。

### ■停車中の空ふかしは禁物

万一、P/N以外にはいっていると知らぬ急発進の原因になります。

### ■停車後の再発進

チェンジレバーが①の位置にあることをしっかり確認してから、発進してください。

## 駐車

1

車を完全に止める。

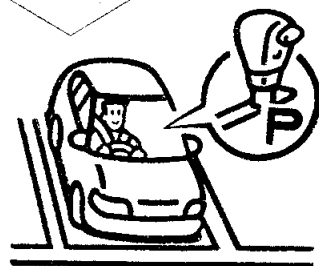
2

ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実にかける。

3

チェンジレバーをPに入れる。

②では車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には、必ずチェンジレバーが①の位置にあることを確認してください。



4

エンジンを切る。

車を離れるときは必ずエンジンを切ってください。エンジンをかけたままにしておくと、万一、チェンジレバーが①以外にはいていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしましょう。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
- 少し後退したあとなどはRにいたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはずぐNにもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどでDからR、RからDと何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でDのままアクセルをふかしながら止まるとはいけません。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。
- 車輪が完全に止まらないうちに、チェンジレバーをDに入れるのはやめてください。無理な力がかかり、トランスミッションをいためることがあります。



## シフトロックシステム

よく理解して正しい操作にお役立てください。

**ブレーキペダルを踏んだ状態でなければPからレバー操作できません。**

- エンジンスイッチが、ACCまたはLOCKのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- チェンジレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

**P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。**

- エンジンスイッチからキーを抜くときは、チェンジレバーをPに入れてください。

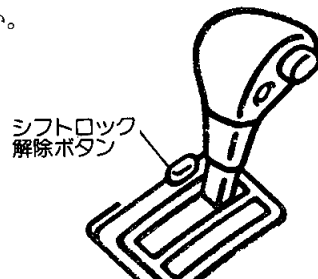
(P以外ではキーをACCからLOCKに回せません。)

**Rにいれるとブザーが鳴ります。**

- ブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんがご注意ください。

**万一、Pからレバー操作できないときは**

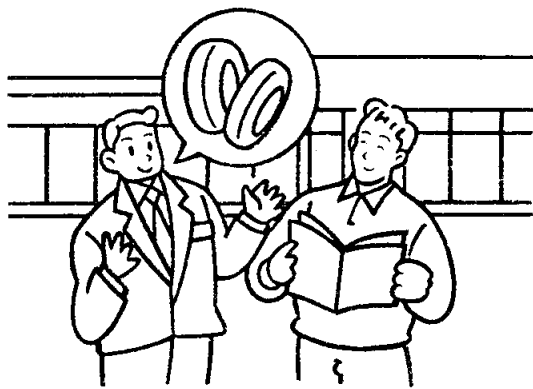
- ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押すとレバー操作できます。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



## こんな点にも注意を

違法改造は絶対にしないでください。

- 車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。



●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

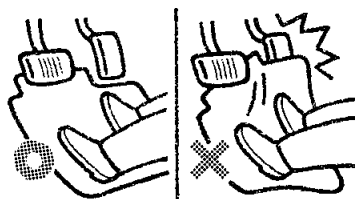
- ・タイヤ、ディスクホイール、ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

- ・電装品、無線機などの取り付け、取りはずし故障や火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

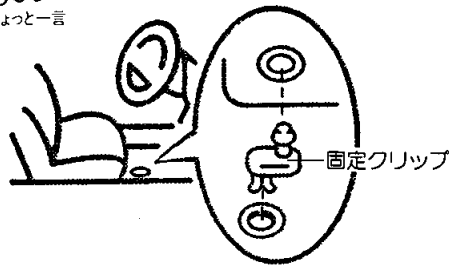
車に合わないフロアマットは使用しないでください。

- フロアマットはアクセルペダルに引っかからないよう、車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。アクセルペダルをおおったり、重ねて敷くとアクセル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。

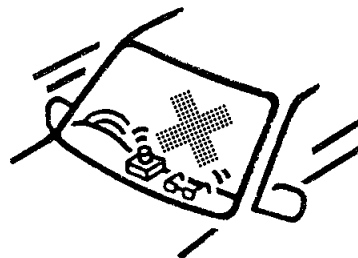
ちよつと言



インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。

- 運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて安全運転のさまたげになるおそれがあります。

また、万一の事故の場合には、ケガの原因となるおそれがあります。



- 灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。開けたまま放置すると、火災になるおそれがあり危険です。



- ハンドフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。



- ラジエーターや補助タンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出し危険です。

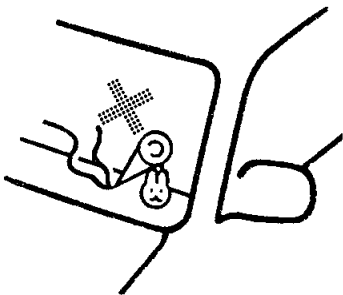


- クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。  
クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

炎天下で駐車するときは車内にライターを放置しないでください。

- 車室内が大変高温になるため、ライターが爆発するおそれがあります。

- 窓ガラスなどには吸盤をつけないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災になるおそれがあり危険です。

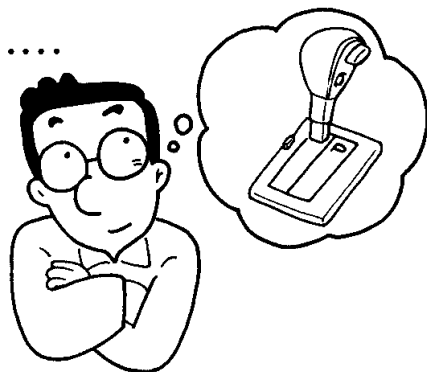


こんなときは.....



- 走行中エンジンが止まったときは.....95
- バッテリーがあがったときは.....97
- オーバーヒートしたときは.....98
- 警告灯が点灯したときは.....57
- ランプ類が点灯しないときは(ヒューズ切れ、電球切れ)..... 100,103
- 踏切内で動けなくなったときは.....95
- 故障したときは.....94
- 発炎筒を使うときは.....96
- パンクしたときは..... 89,90
- けん引するとき、してもらうときは.....99
- タイヤチェーンをつけるときは..... 112
- 事故・故障のときの修理連絡先は.....「メンテナンスノート」参照

こんな装備のお車に乗られているかたは.....



- オートマチックトランスミッション車に乗られているかたは..... 14,46